

地域企業・産業資料デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する地域企業・産業資料のうち、印刷物および近代の文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い資料については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (5) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (6) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 27 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 15HP8021 の交付を受けて作成しています。

秘

第五十九回技術會議
第一部第四回會議々事要旨

一、審議事項

一、第六鑄鐵吹卸時期及之に關聯する事項

二、開催 昭和七年六月廿四日

三、出席者 別紙記載

四、議事

イ、技監 第六高爐吹卸し及び吹入れ時期に關し協議せんとす、之に關し髒炭の生産量及び粉髒炭處分の問題あり、吹卸しの時期如何。

ロ、銑鐵部長 八月より吹卸しの豫定なりしも、鋼材の販賣關係より鋼材部長より其の時期を早める様要望あり、製鋼部としても差支へなき由なるを以て七月中旬に豫定せり。

ハ、製鋼部長 本年度四、五兩月にて鋼塊生産高合計にて豫定より一萬噸多し、故に屑鋼の使用を制限したるも出鋼順調なるを以て銑鐵

の使用は望ましかれども向下半年期に於ては鋼材の生産高も減少するを以て今よりこれが調節のため高炉を早く吹却さるゝを得策と考ふ向鉄鋼の需給關係を本年一年間を追ひて考ふれば、最初の製鋼決定ならば鉄鋼に不足を生ずれども現状にては殆ど過不足なし、調塊：一八三、〇〇〇噸の製造に對し所要の鉄鋼及び外來屑鋼合計一〇三四、五〇〇噸にして外來屑鋼の見込數量二二〇、〇〇〇噸なるを以て鉄鋼としては八一四、五〇〇噸を要す、然るに第六高炉を早く吹却す事により鉄鋼の生産豫定量七三五、〇〇〇噸となるを以て貯蔵冷鉄七九、五〇〇噸を以て不足を補はざるべからず、前年度繰越し冷鉄一〇九、〇〇〇噸にして工務部にて一〇、〇〇〇噸を消費するを以て明年度へ繰越すべき數量一九、五〇〇噸となる。

ニ、技監 鉄鋼部にて上等粉砕炭を使用するや。

ホ、鉄鋼部長 倉庫課にて上等粉砕炭は賣れずとの事にて之を第六高炉吹却前に使用の事に賛成せしも其の篩分準備に今後一ヶ月を要す

る由なれば吹卸までには間に合はざるべし、但し上等粉砕炭は長期に亘り徐々に使用のつもりなり、

戸畑にては現に二%使用中なり、若し二%本所にて使用すれば倉庫課貯蔵の分は本年度内に消費し盡すべし。

へ、化工部長 篩分設備は急げは六月一外に完成の豫定なり。

ト、倉庫課長 上等粉砕炭を他の高炉に使用さるれば第六高炉を早く吹卸さるゝことに異議なし。

チ、技監 第六高炉吹卸後粉炭の製造量如何。

リ、化工部長 直ちに第一黒出式の操業を停止すれば、明年度に於て不足を來す計算なるを以て本年より相當の貯蔵をなさんとす。

又、技監課長 第六高炉吹卸後直ちに第一黒出式の修繕に着手され、一年間に完成すれば可なるも延期せらるれば洞岡第二高炉作業開始後に粉炭不足す。

ル、技監 貯蔵粉炭は經理上如何に處理せらるゝや。

ヲ、倉庫課長 作業費にて處理し手持品とす、故に生産費を高くすることにはならず。

ワ、銑鐵部長 本年度初頭の豫定より出銑量多かりし爲貯蓄を使用せり、第六高爐吹入後は出銑量多量なるべきを以て貯蓄多きを望む。

七月九日吹却の考へなるが瓦斯の供給に就ては如何。

カ、技術課長 瓦斯汽罐に供給せるものを減ずるのみなるを以て差支へなし。

ヨ、鑛務部長 混合瓦斯缺乏の際第二製鐵工場使用の分を調節すべしとの意見あれど瓦斯の使用方針は大体に於て確定され居るものと承知するを以て、其の過不足は汽罐又は加熱室にて調節せらるべきものと考ふ、尚瓦斯は二回清淨を希望す。

タ、技術課長 種々の點より考へ二回清淨の瓦斯を用ふるが有利なりレ、鑛務部長 洞窟に於ける瓦斯の水洗装置は來る九月に完成すべし然し壓力不足なる爲、扇風機を並置するつもりなり、舊工場の瓦斯

の二回清浄は豫算が許せば本年度より設備に着手して可なり。
 ソ、技監 コントレル清浄度を絶えず試験する方法なきや、又建設中
 の高爐附屬の熱風爐の敷を二基に減じては如何。
 ツ、鈔紙部長 清浄度は努めて一定にしつゝあり、熱風爐を減ずるに
 は格子積の粗密の問題より延いて瓦斯の清浄度にも關聯す、洞岡第
 二高爐は七百馬力なるため三基にしたき希望あり。
 ネ、技監 第六高爐は七月十日前後に吹却することゝす、
 上等粉炭は篩分けたるものを高爐にて使用すべし、
 第一黒田式粉炭は高爐吹却後作業廢止のこと、但し明年に對する
 貯蓄をなすこと、其の量は化工部、技術課にて調査すべし。

出席者（七名）

野田技監
鳩淵銃鐵部長
黒田化工部長
久保田製鋼部長
中原運輸課長
木村倉庫課長
井村技術課長